

金融庁との座談会 MaDo 2017年5月号より一部抜粋

「顧客本位の業務運営」は、金融庁が業界に提示している重要課題の1つだ。

自由な立場からサービスを提供するIFAなど独立系チャンネルに、同庁が寄せる期待は大きい。

独立系としてユニークなスタイルを取る2人と、金融庁検査局の水野清司氏との鼎談に耳を傾けよう。



金融庁  
検査局 総務課 市場業務等モニタリング長 兼  
主任統括検査官

水野 清司氏



RIA JAPAN おカネ学  
代表取締役社長

安東 隆司氏

安東 当社でいえば、いわば自分の身内に勧められるようなものしかお勧めしないということと、もう1つ心掛けているのはWin-Winのソリューションをご提供することです。ご紹介者から紹介料を受け取ることはしませんし、実際の売買をする証券会社から手数料のキックバックをいただくこともありません。だからコスト高の商品をお勧めすることにも短期の売買にも、まったくインセンティブが働かない。お客さまと親身に向き合う、余計なコストを負担させない、というのが当社のスタイルです。

成長の兆しを見せる  
独立系チャンネルのチャレンジが  
真の「顧客本位」を根付かせる

安東 パーソナルファイナンスを高校や大学でもっと学びやすい環境を整えていただきたいと思います。法人の金融は学べても、個人の金融のことは分からないまま社会に出ざるを得ないのが現状ですから。一般消費者向けの広報活動、金融教育もさらに広げていただきたいと思いますね。例えばIFAやRIAの存在にしても、多くの方は知りません。認知度が高まれば独立しようという人も増えるでしょうし、私たち同様、顧客本位のサービス提供に比重を置く金融機関ももっと広がるのではないかと思います。

# RIA JAPAN